

算数	特に育成したい能力や態度 (具体的な数字や言葉で記載する) 2～3にしぼる。	授業改善の視点と具体的な方策 (具体的に達成すべき数値目標を記載する) 左側のものとリンク【対応させる】	達成率【割合】 A・・・90%以上の児童 B・・・90～80%の児童 C・・・80～70%の児童 D・・・70%以下の児童
1年生	<ul style="list-style-type: none"> 算数の様々な概念を形成し、楽しく算数の基礎・基本を形成する。 足し算や引き算など、基礎的な事柄を繰り返し行い、確実な力をつける。 文章問題を自分で読み、解けるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> おはじきやブロックを数える、長さやかさを図るなど、多くの具体物を操作し、算数の基礎となる概念を形成する。 朝学習、家庭学習にプリントやスキルを使い、繰り返し学習する。徐々にブロックや指操作がなくてもできるようにする。また、デジタルドリルも活用する。 「文章を読み、立式し、答えを導き出す」という一連の流れを掲示し、自力解決できるようにする。立式するために必要な数字やキーワードを確認し、正しく解答できるようにする。ヒントを出せば100パーセントの回答率をめざす。 	<p>(成果) 基本的な計算問題を解くことができた。具体物の操作を通して、数学的な見方・考え方を養うことができた。(達成率A)</p> <p>(課題) 文章問題を自分で解くことが難しい。キーワードを確認する共に、文章全体の意味を理解しながら立式させる。</p>
2年生	<ul style="list-style-type: none"> 繰り返し上がり、繰り返し下がりのある筆算は、ほとんどの児童が定着しているが、期間が空くとあやふやになってしまう児童もいる。特に繰り返し下がりのある筆算は苦手な児童が多い。 長さやかさの学習では、具体物を用いて、視覚や操作を通して理解できている。細かい数値を読み取ったり、単位の変換をしたりすることに課題がある児童がいる。 3桁の数では、10のまとまりや100のまとまりなど、位を意識して数を捉えている。数直線の1目盛りがいくつを表しているのかを読み取ることは全体的に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に計算のプリントで練習し、定着を図る。足し算と引き算が混ざった問題に取り組む。また、デジタルドリルを活用し、確実な定着を目指す。 日常の生活の中で、長さやかさに関する事を取り上げ、実体験から定着できるようにする。 復習を行なう際に、1目盛りがいくつを表しているのかを捉えるように意識させる。 	<p>【成果】 具体物を用いて、視覚や操作を行うと理解することができる。(達成率B)</p> <p>【課題】 繰り返し上がり、繰り返し下がりのある筆算や長さ、かさの学習など期間が空くとあやふやになってしまう児童が多い。数直線の1目盛りがいくつを表しているのかを読み取ることは全体的に課題がある。</p>

<p>3年生</p>	<ul style="list-style-type: none"> • かけ算九九を正確に暗唱できる。 • 繰り上がり、繰り下がりのある筆算で、位を揃えてかくこと、繰り上がり数・繰り下がり数を書き込み、正しく計算ができる。 • 文章問題の内容を数直線や図に表すことができ、大事な言葉や数字を見つけ、正しく立式すること、答えを求めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> • かけ算九九を定着させるために、様々なプリント学習やデジタルドリルを活用し、毎日復習する。内容は5分間程度のものであるとする。場合によっては、宿題として取り組ませる。毎日取り組むことを基本とする。【2学期末までに達成率100%を目指す。】 • 筆算で計算する際は、ノートに1マスに1文字1数字を引き続き書かせていく。繰り上がりの数や繰り下がりの数を決めた場所に必ず書く習慣をつけさせていく。授業時、ノート提出時に個々の取り組みを確認し、○印やスタンプ、コメントを入れ、取り組み方を評価していく。 ➤ 【2学期末までに達成率90%を目指す。】 • デジタル教科書(大型モニター)と黒板を併用し、文章問題を解く際に大事な数や言葉にアンダーラインを引かせる。また、演算決定する場面では、数直線や図を用いて確認する。さらに、単位の確認も全体で行う。 ➤ 【2学期末までに達成率100%を目指す】 	<p>(成果) かけ算九九を正確に暗唱できている児童が多い。また、位を揃えてかき、正しく計算できる。 (達成率B) (課題) 文章問題の内容を図で表したり、正しく立式することに課題がある。</p>
<p>4年生</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 繰り上がり、繰り下がり、九九など基礎的な計算を定着させる。 • かけ算九九を正確に身に付ける。 • 定規や分度器、コンパスなどを正しく使うことができる。 • 文章題などにおいて、問題に正対して答えることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> • 授業の始めに、9～25マス計算を行い、習熟を図る。 • 宿題で、継続的に既習事項の復習を行う。 • かけ算九九のいろいろな問題プリントやデジタルドリルなどを活用し、繰り返し復習する。覚えることに苦手感をもつ児童には、場面によって九九表を用いて、かけ算九九を正しく覚えさせる。 • 分度器を使用する際、どちらから数字を読むのか(右からか左からか)を、その都度確認して確実に角度を読めるようにさせる。様々な場面で、ミニ定規や三角定規を用いて線を引く活動を取り入れ、定規を手でしっかり押さえて使う習慣をつけさせる。 • 問題を全体で確認し、問いと答え方を押さえてから問題に取り組ませる。 	<p>(成果) 授業の始めの計算タイムは、授業へのスイッチオンになっている。九九表を提示することで、安心して計算に取り組める児童がいた。問題について問いと答え方を押さえてから取り組ませることで、何をすればよいのかが明確になった。(達成度C) (課題) 授業で理解できている、テストをしたり、少し間をおいたりすると、忘れてしまう。定規、分度器、コンパスの</p>

			使い方も同様である。もっと計画的に練習機会を入れていく必要がある。
5年生	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な計算能力を正しく身に付けていない児童が3～4割程度いる。特に3位数以上の和や差を求める筆算や、2位数以上の積や商を求める筆算の計算につまずきがある。 →基礎的な計算力を伸ばす。 既習の基本的な公式や用語の忘れが多い。特に単位換算や面積の求め方にみられる。 →基本的な公式や用語を正しく覚える。 文章から場面を想定し、意図に沿った立式に苦手感がある。そのため、根拠を基に説明することにも躊躇する児童が多い。 →場面に合わせて数直線や図を基に考えて求めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 反復練習を強化し、既習事項の理解を確実にする。授業の導入時にミニプリントを用いて計算練習を行う。また、朝学習時等でデジタルドリルを活用し、計算の仕方を復習する。 【2学期中に達成率80%を目指す。】 単元ごとに既習事項を確認し、取り扱うことが可能な場面で確認をしていく。公式や用語を提示し、復習する。 【3学期末までに達成率100%を目指す。】 大事な数字や言葉にアンダーラインを引き、どこを根拠に考えていけばよいのかを確認させる。また文章を図で表すことで理解を深め、根拠をもたせた立式をさせる。 【2学期末までに達成率80%を目指す。】 	<ul style="list-style-type: none"> B:自分の課題克服を意識できた児童については、様々な取り組みを通して計算能力の向上が見られた。自分の課題を藤橋チャレンジの結果などからより意識化させて、様々な反復練習に取り組ませることが必要。 C:用語や公式について、ただの暗記ではなく、なぜそのような表現になるのかを考えることができるようになった児童については、忘れていても考えを組み合わせで思い出すということがスムーズにできるようになった。今後とも自分の考えを図に表し少しずつ組み合わせで課題解決していくという授業の実践で、算数的思考力を高めていく必要がある。

<p>6年生</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な図形の面積を求めることができる。 ・平均、混み具合、速さなど、問題文から数直線や図から立式し、正しく答えを求めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な面積の公式を正確に理解できていないため、授業導入時や日頃の主題で基本的な図形の面積を求める問題に取り組む。東京ベーシックドリル、ミニプリント、デジタルドリルを活用し、定着を図る。基本的な公式の掲示を作成する。 【2学期末までに、達成率90%を目指す。】 ・既習事項を用いて解く問題も多いが、具体物を提示したり大型モニターを活用したりすることで、問題文の全体から必要な数字や言葉を捉えることができるようにする。また、考え方を数直線や図で表し、立式できるようにする。立式の手立てとなるヒント図を作成し、提示する。 【2学期末までに、達成率90%を目指す。】 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の課題克服を意識できた児童については、様々な取り組みを通して計算能力の向上が見られた。自分の課題を藤橋チャレンジの結果などからより意識化させて、様々な反復練習に取り組ませることが必要。 (達成率D) ・用語や公式について、ただの暗記ではなく、なぜそのような表現になるのかを考えることができるようになった児童については、忘れていても考えを組み合わせる思い出すということがスムーズにできるようになった。(達成率C) 今後とも自分の考えを図に表し少しずつ組み合わせ課題解決していくという授業の実践で、算数的思考力を高めしていく必要がある。
------------	--	---	--